

は藤の千風。京菊屋平兵衛板。

ナガツグ 長次 加賀の刀工。承應三年前田利常が製作せしめて、越中瑞龍寺に寄進した二十二万の中に、賀州住藤原長次と銘じたものがある。

ナカツハラ 中津原 江沼郡四十九院谷に属する部落。

ナガテザキ 長手崎 珠洲郡小泊の東方なる岬で、能登半島の最東端をなすものである。

ナガテジマ 長手島 羽咋郡柴垣の海岸に在る。能登名跡志に、『此磯三町許沖に、長手島とて風景の堂有て、今は七面明神の堂あり。江州の淨見堂の風景の由。本尊七面の御神體、此海上りに給ふ。石像にて奇瑞あり。即村に本成寺とて日蓮宗の寺あり。此寺の支配也。』と記する。長手島は島嶼であるが、砂洲の發達によつて冬季以外は、海岸から西方に約五五〇米突出した半島状をなし、所謂トロンボの一例である。島内に片麻岩塊の大岩石多く、ベグマタイトに貫かれ、巨晶の外に岩漿分結物を含み、世に長手石といはれる。

ナカト 中戸 石川郡富樫庄に属する部落。

ナガトアゲチマチ 長門上地町 金澤の舊町名。貞享二年の養智院由來書に、正保三年際川長門上地地を拜領したとある。この地山崎長門の舊邸地であると傳へ、當時長門上地町と稱したのを、後に略して長門町としたのであらう。

ナカトウジ 中刀地 ナカ 鳳至郡東山の内の小字。

ナガドヘイドホリ 長土堀通 金澤の町名。藩政中この地は今枝・村井及び長氏の下屋敷

の地で、その外圍の土堀が往來の左右に引續いてゐた爲、世人長土堀と俗稱した。廢藩後下邸を廢して商家を建築したが、明治四年四月戸籍編成の際、長土堀一番丁・二番丁とすることにした。

ナガトホクシヨウ 長門北丈 金澤の俳人。通稱伊右衛門。所居を秋夕亭といふた。慶應二年正月四日歿、享年六十九。

ナガトマチ 長門町 金澤の町名。ナガトアゲチマチ 長門上地町。

ナガトミシヨウ 永富庄 元應元年の近江日吉社注進に、『加賀國大桑永富兩莊、三社御供料所淨土寺御門跡料、但近年不被付門跡、仍神用關如畢。』とあつて、日吉社領であつた。永富庄が若し大桑庄と同郡ならば、石川郡に属するわけであるが、その位置は明らかでない。

ナカナホミ 中直海 ナカ 石川郡河内庄に属する部落。

ナガナミ 長並 源平盛衰記に、『源氏勝に乗て續て追ひ、長並・一松・成合までぞ賣付たる。』などいふ長並・一松は、江沼郡と思はれるが、今何れの地とも判らぬ。

ナカナリ 中成 石川郡成の内的小字。

ナカニシコサエモン 中西小左衛門 寛永十九年御射手に任じ、知行百五十石・弓料五十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

ナカニシシゲカツ 中西重雄 通稱岡丞。小左衛門の養子で百五十石を襲ぎ、御射手となり、享保十一年五十石を増し、九年小頭に進み、十三年八十歳を以て歿した。

ナカニシジウエモン 中西十右衛門 前田利常に仕へて知行百石・弓料五十石を領し

たが、後射手を免ぜられた。子孫相繼ぎ、七代采吉が天保十四年十二月八日出奔するに至つて斷絶した。

ナカニシシン 中西慎 通稱巴門。文政元年新知百石を受け、明倫堂助教に任せられ、天保元年更に五十石を加へ、七年四月致仕し、八年八十歳を以て歿した。

ナカニシナホカタ 中西尚賢 本姓中原氏。諱は尚賢、通稱市之進。字は士希、鯉溪又は水竹居士と號し、深恩齋、筆を把れば一氣に七律十餘篇を呵成した。初め前田直躬の儒臣となり、後村井長登に仕へ、明和五年二月十日歿。

ナカヌマ 中沼 河北郡と羽咋郡との界に、中沼のあつたことは、羽咋郡北川尻の諏訪神社記に見える。もとの高松湯又はその附近の沼淵をいふのであらう。

ナカヌマ 中沼 羽咋郡押水大海庄にある部落。

ナガヌマサマ 永沼左馬 祿五百石。大坂再役に京橋二丸にて敵首一つを得た。寛永十六年大聖寺藩侯前田利治の從臣となり、子岡丞は五百石を得て延寶二年の士籍に見えるが、其の後は明かでない。

ナガネヲザカ 長根尾坂 鹿島郡小牧から中島に通ふ往來にある。

ナカノ 中野 能美郡板津郷に属する部落。

ナカノ 中野 石川郡大野庄に属する部落。

ナカノ 中野 羽咋郡押水中庄に属する部落。

ナカノ 中野 珠洲郡春日野の内的小字。

ナガノ 長野 能美郡の舊邑名。石清水文書慶安七年五月十八日附、英田四郎次郎宛所、

富樫昌家の判書に、『長野一針兩村事、嚴密致其沙汰、可令邊行石清水八幡宮之雜掌也。』とある。後に大長野・小長野・長野田の諸村はあるが、長野がその何れに當るかは明らかでない。

ナカノイヘミツ 長野家光 通稱彦三郎。能登の士。正平六年(觀應二)九月得江石王丸代長野彦三郎家光の軍忠狀に、八月十八日越中の敵桃井刑部大輔直信が、鹿島郡三引保赤藏寺に籠つた吉見三河守氏頼を攻めたので、之を救援せん爲大津から打出た長秀信の勢に關し、九月十六日以降連日交戦、廿一日三引の敵城に押寄せ、遂にそれを驅逐したが、この際家光は頸骨に射疵を得たとある。

ナカノインサダキヨ 中院定清 元弘元年能登の國司として下り、建武元年越中の國司に轉じたが、二年十一月同國の守普門藏人利清が、足利尊氏の命により能越の兵を集め官軍に抗した時、定清は之を石動山に防いで戦死したといふ。尊軍分隊村上源氏中院系圖に、定平の子定清、左中將・越中守、建武二十二年越中に於いて戦死とあるもの是である。

ナカノインミチカツ 中院通勝 三輩記に、中院中納言通勝也足軒は、天正十年明智光秀が反旗を擧すに先だちて連歌の會を催した時、之に興つた隙を以て羽柴秀吉から加賀の安宅に流竄せられたが、その地でまうけた息女が岡島備中一吉の妻になつたことを載せてある。享保雜誌に也足軒の論語は十九年間に及んだとある。

ナカノインミチキヨウカシユウゴリヨウ ショトウチヨウコウ 中院通世卿加州御領所等徵考 一冊。田邊政己著。古記録に、中院